ティーチング・ステートメント

所属　横浜商科大学
名前　谷中拓哉
作成日　2020年9月14日

【責任】

私は、経営情報学科スポーツマネジメントコースの教員として、現在は社会力演習やICTリテラシーといった基礎科目と専門科目であるゼミナールの授業を担当している。授業外では学生支援専門部会に所属しており、スポーツジム管理者、体育部連合会顧問、バドミントン部部長、軟式野球部部長代理を務めている。

【理念】

学生には自ら主体性を持って、社会に貢献するような人材となって欲しい。これまでは、ある程度決められたコースや授業を受けることによって、つまり受け身的に時間を過ごしてきたことが多かったと思うが、社会に出れば、自分で考え、行動することが重要となる。そのために大学生生活を通じて、主体性を身につけてもらいたいと考えている。

また、スポーツ科学という分野は一見、実社会との繋がりが小さい印象があるが、スポーツ科学を構成する一つ一つの知識や情報は、分野の枠を越えて、実社会に有益な物であると考えられる。特にスポーツ科学に含まれる身体運動や健康科学等は、私たちの人生を健やかにするものである。このような知識をできるだけ多く学生たちには、自分のモノにしてもらいたいと考えているため、授業内容や自分の授業中の振舞に関しては注意を払い、学生にとって親しみのある教員となり、活発な質疑や議論ができる環境を整えるようにしていきたい。

【方針・方法】

私の方針は、学生と教員の距離が近く、コミュニケーションがとりやすいような「授業が受けやすい環境を作る」こと、そして「専門分野（スポーツ科学）の知識と実社会の関係を示す」こと、さらに授業や普段の生活を通じて「社会人としての振舞を示す」ことである。

「授業が受けやすい環境を作る」

・授業内では、不平等な扱いをすることによって、学生の意欲を下げてしまうことがあるので、全ての生徒に対して声がけをすることを心がけている。

・スムーズなコミュニケーションを取るためには、お互いの名前を把握することが重要と考えている。そのため、担当学生の名前を覚えるようにしている。

・学生の意見を尊重し、建設的なアドバイスをするように心がけている。
・スポーツや運動によって共に身体を動かすことは、お互いの距離を縮めるものであると考えている。そのため実技系の授業であれば、学生と一緒になって実技を行うようにしている。

「専門分野の知識と実社会の関係を示す」
・幅広い知識が定着できるように、小テストや問いかけを行なっている。
・普段行なっている動作や仕草をスポーツ科学を通してみた際にどのような仕組みなのかを、インパクトが残るような形(関連する興味深い動画や想像以上の数値など)で示す。

「社会人としての振舞を率先して示す」
・コミュニケーションの第一歩は挨拶であるので、必ず挨拶をするようにしている。
・相手の立場に寄らず、件名・宛先・自分の名前・挨拶などメールの文章をしっかり記載する。

【評価・成果】
・授業が分かりやすいというアンケート結果が得られた。
・授業内においても分かりやすいというコメントを直接もらった。
・先生に会ってみたいというコメントを多くもらった。
・学生支援専門部会で部活動勧誘に関する意見が採用された。

【目標】
・社会人として、様々な事に貢献できる人材を教育する。
・スポーツ科学の中でも自分の専門分野の授業を丁寧にかつ分かりやすく行なっていく(2021年4月～)
・スポーツジムの利用を活発化させる(2021年4月～)。